

2008 年度「館長懇話会」

日時：2008 年 6 月 13 日

場所：愛知学院大学日進キャンパス本部棟 3 階大会議室

テーマ：『西地区大学図書館のさらなる連携』

【大阪学院大学館長】 今回はフリートークという形で、また先ほど総会で 2008 年度部会事業計画案の時にもご質問いただきましたように、協議会活動のある意味での援助と言いますか、相互連携をいかにしていくかという問題もまた絡んでまいります。前にお願いしておりましたのは、役員会の時に各協議会ごとに活動の実態をまずご報告いただき、そこでどのような事業内容が行なわれているか、また連携がどのような形で行なわれているかをご報告いただきまして、その中からいろいろと問題点を見つめていきたいと考えている次第でございます。それでは非常に立派な資料をご提示いただきました東海地区様からお願いいただけるのでしょうか。中京女子大学附属図書館様と書いてございますが、お願いしてよろしいでしょうか。

【愛知淑徳大学】 東海地区協議会理事校の淑徳でございます。中京女子大学様のほうから研究活動報告、昨年度のものを提出いただきましたけれども、今回こちらの席上に中京女子大学様はご欠席というふうに聞いておりますので、一応こちらの昨年度の東海地区研究会の活動をテーマとして「デジタルリソースの導入と活用」ということでございます。当協議会の東海地区で発行しております「館灯」に掲載させていただいておりますものを抜粋してご報告させていただいております。研究会を 3 回させていただき、1 回は研究会ということ、研究会と研修会をやりましたあと、アンケートを頂戴いたしましたので、このアンケートの結果と、コメントを一覧にしたものを資料として付けさせていただいておりますので、ご参考としてご覧いただければと思います。以上でよろしいでしょうか。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。非常に懇切丁寧におまとめいただきまして本当にありがとうございます。このデジタルリソースのところで、ちょうど昨年 10 月 2 日にこのテーマで設けられたとお伺いしております。特にここで注目のありましたが、1 つには非加盟館職員のご参加をお認めいただきまして、非常に活発なご討議がなされているということと、それからやっぱり今ここにございましたアンケート、担当者会議をお開きになりましてこのような見事な結果をおまとめいただきました。アンケート対象者会議でどのようなことをやられたか、協議の内容と、そしてその実施状況がいかなるものであるかということが、見事に描かれているかと存じます。そうしたものがお互いに連携を図る上でどのようなになっているのかというのを、できればご参考までにお伺いいただければと思います。また管理運営実務者会議というのもございますようですけども、管理運営実務者の間でどのような討議がなされ、それがまた私共の役に立つような方向で運営をされているのか、もし愛知淑徳様のほうでご存じであればお教えいただければと思う

んですが、いかがなものでしょうか。

【愛知淑徳大学】 誠に申し訳ございませんけれども私は4月1日から着任いたしましたので、過去のことにつきましてはこのご報告しか、具体的なことはちょっと言及できないんですけれども。この館長懇話会のほうにも東海地区の方々にご出席かと思っておりますので、そちらのほうでお答えいただければ幸いかなと思っておりますので、逃げてるようでも申し訳ないんですけれども。よろしいでしょうか。

【大阪学院大学館長】 はい、ありがとうございます。東海地区の協議会にご参加の加盟館の方で、何かこれにつきまして参考になるご意見がございましたら、ぜひお教えいただければと思うんですが、いかがでございますでしょうか。中には「東海地区協議会活動の見直しについて」、それから今年度の協議会の研究会等の主な活動のテーマとして「新しい大学図書館のサービス、利用者の満足度アップのために」とございます。私共が共通して抱えているような問題で、たとえばいかにしてこの活動を盛り上げていくかと言えば、当番のあり方とか、テーマの設定の仕方などについて、ということになるかと思っておりますが、いかがなものがございますでしょうか。ここにございます「活動の見直し」などというのは、具体的にどのようなものでしょうか。

【愛知淑徳大学】 昨年1年かけまして、こちらの参考のほうに「現組織体制」というものが記入してございますけれども、東海地区協議会のほうはまず常任幹事会がございまして、その下に研究会、図書館サービスシステム委員会、管理運営実務責任者会議という3つの委員会からなっております。そのうちの研究会と図書館サービスシステム委員会を統合した形で新しく活動を見直していこうということになりました。研究会とサービスシステム委員会は、研修会等で重なる部分もございましたので、その辺の重複する活動内容を見直して、会合の頻度とか委員長、主幹事、幹事等の役割を検討して、昨今どの大学様もそうなんですけれども職員体制が削減されたりしてきておりますので、そちらのほうで、縮小と言うよりは発展的に皆様が委員会活動に参加していただき、積極的により充実した研究会等を行ないたいと思ひまして、こういう形で昨年1年かけて見直しをさせていただきました。平成21年度から実施していきたいと思ひ、具体的なものに関しまして今年度の総会でこの骨子をお認めいただきました。ワーキンググループを組織し、その席上で具体的に検討していこうということで、来週第1回のワーキングを開きたいと思っております。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。確かに図書館の職員の削減というのはどこの大学でも非常に急を要する課題でございますので、こうした私達の組織の中でいろんな研究会や研修会を少ない人手でやっていくというのは、非常に難しいところに立たされているような気がいたします。その中で縮小というわけではないんですが、発展的な解消と申しますか統合化を進めることによって、少しずつでも部会活動、協議会活動を活発化させようという意気込み・取り組みに向かわれようとしていることがお伺いできるような気がいたします。何か今のことにつきまして他の館の方々からご質問等ございませんでしょうか。はいどうぞ。

【九州女子大学館長】 たびたびですみません、九州女子大学の高橋です。第2回の研究活動報告の1枚目でございますが、10月2日の参加者が30大学34館55名で、その下に4館19名、東海地区協議会非加盟館職員というのがあります。参加をお認めになっていらっしゃるのをご理解いただけるんですが、この方達にどのように広報されたのか、それとも東海地区協議会の加盟館から、いわゆるプライベートな形でニュースが流れたのか、このあたりをちょっと教えていただけますでしょうか。

【愛知淑徳大学】 東海地区のほうに名大さんが事務局となっています国公立大学の東海地区大学図書館協議会というのがございますので、そちらのほうに研究会の情報を流させていただきます、そちらに加盟していらっしゃるところにご案内を出していただいたという状況でございます。今年度も第1回の開催を6月24日に予定しておりますけれども、これにつきましても名大様のほうにお願いいたしまして、東海地区大学図書館協議会のほうへご案内をお願いしております。昨日それをお願いしたばかりですので、加盟していらっしゃるところにもまだ情報が行っていないかも知れませんが、一応そういう形でご案内は出させていただきます。

【大阪学院大学館長】 いかがでございますか。

【九州女子大学館長】 先ほど総会の時に発言した内容とかなり関係があるんですが、東海地区の中だけで閉じないで、西区部会全体で広報していただいて、逆にその中、いわゆる東海地区を超える非加盟館から聞きたい、参加したいという方がいれば参加できる道を開いていただければありがたいなというふうに思います。

【大阪学院大学館長】 はい、ありがとうございます。愛知淑徳様、今たとえばホームページにアップするというはやってないんですね。この10月2日の段階ではホームページへの掲載はなかったような気がします。

【愛知淑徳大学】 開催の掲載はなかったと思います。

【大阪学院大学館長】 今ご発言いただきましたように、できればそうしたものも広く、今後ホームページ上にアップして周知徹底できるように、また非加盟館でも呼びかけることができるようにしていけたらと考えております。先ほどの事業計画案というのは確かに今ご発言いただきましたように、研究活動はどうなっているのだろうか、もう少しホームページを活かすべきではないだろうか。部会長校として実はこれにつきまして私も、本学でホームページ委員会が開かれました時に徹底的にそこら辺を、僭越でございましたけれどもお願いいたしました。まだいろいろクリアしなければならない問題点を抱えているのは承知ですが、今のホームページのようにただの過年度報告では意味がないだろうということだけは申し上げまして、たとえば今年度どうするのかということだけでもアップしていけるようにということもお願いしておきました。また研究報告とか研修報告の事前アップも、できれば本来やってもいいのではないかと。特に僭越でございますが私共の学会なんかでも、もう論文等は事前にアップすることになっております。今私共の矢田部のほうから、いわゆる著作権というお話が出ましたが、これも学会などでは本来やっぱり、発表し

た内容につきましては本人、あるいは掲載しました学会に帰属するというのが原則だと思っております。ただこれにつきましてはまだ法学の先生方にお伺いして確実にクリアしたわけではございませんので、煮詰めてまいりたいと考えております。

皆様方が研修会あるいは研究会でご発表になったものは決して学会発表の内容にひけをとらないものかと思えます。そうしますとやっぱりそれなりの準備をしていただいたものをきちんとした形で事前アップする必要が出てまいります。私達自身もそうしたことを心がけていながら、これから特にホームページ委員会（矢田部もそれに入っております）あたりに呼びかけて、特にアップするにあたりましてのルール作りをする。ホームページの容量が大きくなったのは構わないんですが、何でもかんでもアップするというのは乱雑になってしまっただけを見ていいのか、というのがいろんなところで出てまいります。そこら辺をクリアするようにお願いして。ただかなり時間がかかる場所がございますのでもう少しご辛抱いただきまして、少なくとも今のような良い部分だけでもアップできるような方向に向けさせていただきたいと思えます。ただし私もあまり任期がございませんので、言い出しっぺで逃げてしまうと、お前は何をやってたんだと叱られてしまいますけれども。まあ次の部会長校ないし会長校様にも引き継いでいけますように、今ここにおられます中央大学の会長先生にもお願いをして、そうしたことを協会全体でも取り組める方向にやっぴいこうじゃないかというお話をしてまいりましたので、もう少しお時間をいただいで、できればホームページの活用をぜひやっていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。他に何かございませんでしょうか。はいどうぞ。

【名古屋女子大学】 東海地区協議会で図書館サービスシステム委員会というのがございますけれども、その委員長校をさせていただいております名古屋女子大学の尾崎と申します。ただいま東海地区協議会のホームページでの情報のご案内について話題がございましたので、補足をさせていただきたいと思えます。東海地区協議会も他地区と同様にホームページがございまして、そちらのほうでただいまお手元でございますような分科会ですとか管理運営者等々の開催をアップさせていただいております。また事前に発表の内容、原稿等々はまだ更新しておりませんが、それぞれの研修会でご講演いただきました内容につきましては、地区協議会のほうに「館灯」という機関誌がございまして、そちらのほうに原稿を寄せていただいております。その「館灯」の全文を地区協議会ホームページで公開しております。また「CiNii」のほうにもアップしておりますので、そちらでもご覧いただけるようになっております。今年度の事業に関しましても、こちらにございます研究会のご案内ですとか、各種研修会のご案内がすでに東海地区協議会のホームページで開催案内としてご紹介させていただいておりますので、ぜひともご覧いただきますように、補足とご案内をさせていただきました。よろしくお願ひいたします。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。私のほうもちょっと勉強不足でございまして、大変失礼をいたしました。東海地区様はかなり活発にご活動をなさっているとは承知しておりましたが、私共の情報不足で大変失礼いたしました。ぜひご参考になさって

いただければと存じます。よろしく願いいたします。他にございませんでしょうか。それでは阪神地区、よろしく願いいたします。ご欠席ですか。お膝元で申し訳ございませんが、大きい声で言えませんがご欠席だということでございまして、困ったな。それでは続きまして京都地区、お手元にレジメが協議会から出ております。よろしく願いいたします。

【京都学園大学館長】 それでは京都地区協議会からのご報告ということで、お手元のレジメ、非常に簡単なものでございまして、これをご参照いただきながら報告をお聞きいただきたいと思えます。テーマとしまして「さらなる連携」ということでしたので、全体の事業活動・研究活動と言うよりも、連携活動をどうしているかということにフォーカスしましてご報告したいと思えます。レジメの1項目に「相互協力連絡会」と書いておりますけれども、そういう相互協力の連絡会を作っております、今から16年前の平成4年に次の3つの協定を京都地区協議会内において結んで連携をしてきているということでございます。1番目が共通閲覧証の協定ということで、図書の閲覧に関わる参加41校の全館で利用可能な閲覧証を用いると。2番目が京都地区の相互貸借協定ということで、お互いの所蔵している図書に関して所定の方式で申込みをしながらやりくりするというものでございます。それから3番目が京都地区資料分担保存協定ということでありまして、加盟館が新聞・雑誌の資料保存負担を軽減するという目的で、それぞれ分担して所蔵するというもので、参加校は11校なんですけれども、そういう形でお互いに持ち合っているということでございます。特に3番目なんですけれども、当校でも非常に問題になっていますが、蔵書が増え過ぎましてスペースがパンパンになるということで、またそのバックヤードを作らなくちゃいけないとか、そういうお悩みを抱えている図書館もあるかと思えますが、そういうことでこの辺が、今新聞・雑誌ということでございますけれども、いろんな形で保存の分担がなされれば、ランニングコストも含めて軽減されていくんじゃないかなと思っている次第です。

こういうことに関しまして相互協力利用マニュアルというのがございまして、それを協議会のホームページ、インターネットでもって公開しまして会員校の人達の利用に供しているというのが図書関係でございます。3番目にちょっと項目が飛びまして、これも図書関係なので続けて申し上げますが、阪神地区の方がご欠席ということでございますけれども、京都地区と阪神地区は隣り合わせでございますから、その地区間の相互協力を2007年、19年度に結びまして、お互いにそういうことが協議会間でもできるような形でもってスタートしているということでございます。

2番目は「近畿イニシア」という、私立・国公立を含めた組織がありますが、そこに加盟いたしまして、特に職員の能力向上のための研修・研究、そういうものに対しても参加しながら連携を深めていくと。まあこんなような連携活動をいたしておりまして、その相互協力連絡会を年2回（春・秋）開きまして、マニュアルの整備とか、インターネットの開示とか、そういうことも含めまして順次改定したりということで協議をしながら、なる

べく地域での相互利用の促進を図ってきているということでございます。ご報告のありました研究活動その他については、だいたい年2回、主題別研究会というのがありまして、書籍に関しての研究会と、業務の効率化等々を含めての研究会とを、年1回ずつ開いております。私もこの4月から館長を仰せつかりまして、にわか勉強でございますので、ぜひ会員参加校の補足なりをいただければありがたいなと思っております。以上でございます。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。京都地区は実はここにご参加いただいています福井工業大学様とか、福井県、石川県を含んだいわゆる広域県にわたっておりまして、ご参加いただくのは大変かと思いますが、こうした参加のお呼びかけなんかはどのようにされているのでしょうか。もしご存じでしたらば、福井県からお越しいただいて大変恐縮だと思うんですけども。

【福井工業大学館長】 だいたいメールでさせていただいてます。

【大阪学院大学館長】 ホームページの活用とかはまだでございますか。

【福井工業大学館長】 まだ充分ではございません。

【大阪学院大学館長】 はい、ありがとうございます。このように京都地区は広域にわたります運営させていただいているわけですが、何かご質問、あるいは良いアイデア等お教えいただければということでもございましたので、何かご意見がございましたらよろしく願いいたします。それでは阪神地区、当方にもちょっと責任がございまして、私共の矢田部のほうから少し報告をさせていただきたいということでもございます。

【大阪学院大学】 阪神地区協議会のほうですけども、京都地区さんとは以前から、それぞれ研究会を開催する場合に両方から参加していただける相互乗り入れという形で行なっております。それで先ほどの総会資料19頁をご覧くださいんですけども、中程からちょっと下に、2007年度第2回阪神地区研究会というのを2008年2月22日に関西福祉大学様で開催いたしております。この大学様は播州赤穂のほうにございまして、その関係もあったので一応メーリングリストを使わせていただきまして、中国四国地区のほうにも呼びかけをさせていただいたようでもございます。

その結果阪神地区が17校、京都地区が3校、中国四国地区は岡山理科大学さんだっと思うんですけどもご参加いただいております。阪神地区も地理的に神戸地区から阪南地区まで広くございまして、奈良地区なんかは特に、大学様のほうで京都に出るのが便利なのか大阪に出るのが便利なのかによって、京都に行かれたり大阪のほうに来られたりいたしております。前期の久留米大学さんの時にも呼びかけていただいていたんですけども、やはりどこも財政的に逼迫している中で、なかなか遠方までは行けないということがございます。地理的な条件が許せばひょっとしたら来ていただける、そういう意味ではメーリングリストとかいろんなものをうまく使ってやらせていただけたら、まあ受け入れ側の体制の問題もあるとは思いますが、少しずつでも広がっていくのかなというふうに感じました。すみません、それぐらいのことしか存じませんので、あと阪神地区でもし何かご存じのことがあれば補足していただけたらと思います。

【大阪学院大学館長】 ということで、阪神地区加盟館の方で何かございましたらぜひお願いしたいと存じますが、いかがでございますでしょうか。はい、それでは中国四国協議会をお願いしたいと存じます。

【四国学院大学】 中国四国でございます。中国四国は地域的には広いんですが、昨日ちょっと役員会で話が出たのは大学が極めて小規模で、一番大きい大学でも学生数が5,000～6,000ぐらいです。小さいほうは1,000を切る大学もございまして、図書館も比較的小さい。だから逆に言えば大きな大学みたいに丸投げとかアウトソーシングはしてないと言うかできないと言うか。そういう意味ではお友達はみんな10年とか20年とか。私も30年同じ大学の同じ図書館にいるので、そういう人が1人や2人、あっちこちの大学にいます。そうすると機械的な連携はともかくとして、仲良くなっちゃって、そのほうがむしろいいのかなと。だから「勉強会をしようか」と言ったら寄って来たり。それからもう1つは、公共図書館とも案外仲が良く、なぜそうふうになるかと言うと、もともと資料の数が少ないので、公共にも頼まないといけない。公共も大学に頼まないといけないという感じです。今もう1つ学校図書館の司書教諭とか司書の方ともお友達になってきて、大学図書館だけでなく公共とも学校とも人間関係でつながっている。この関係性がまだ5年や10ぐらいは、大学が潰れなかったら続くのと違うかなというふうには考えております。以上です。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。確かに中国四国地区は大学数が少ない。規模も小さい。従いまして公共図書館と連携協力体制が必要であるということは常々お伺いしているわけでございます。また少ない数の中でお互いに研究・研修を輪番していかなければならないという問題点もあるようでございます。何かご参考になるようなことがございましたら逆にお教えいただきたいというのが、中国四国地区の内情のようでございます。何かございませんでしょうか。それでは九州地区へお願いいたします。

【福岡大学】 九州地区も連携と言いますかいろいろやっているんですけども、なかなか阪神地区さんとかのように活発ではないですね。まず九州地区では九州地区図書館協議会、これはどこの地区もあるかと思えますけれども、国公立・私立大学、それから短期大学、全てが参加しまして定期的に集まって研究会とかを行なっております。これは本来は図書館間の交流とか、資料の相互利用をしていると思うんですけど、規模の大小によっていろいろあるようですので、なかなかまだ強く進んでないようなところもございます。それとあとは福岡県佐賀県大学図書館協議会を作って、これは先ほど言いました国公私立大学それから短期大学をひっくめて相互協力を密にしたいということで、毎年これも行なっております。それからあとは久留米大学・熊本学園大学・西南学院大学・福岡大学・九州産業大学で5大学図書館研究会なるものを定期的で開催して、職員のスキルアップに務めているところもあります。この5大学図書館研究会ができたことで、外国新聞分担保存運営委員会なるものを作りまして、外国新聞の分担保存を今やっております。それから今四国からおっしゃったような公共図書館との連携を強めて相互利用を密にやろうというこ

とで、福岡県公共図書館、それから市とかに相互貸借の協定を結んでいるところです。そういうところで相互利用ができないかなということをやっております。以上でございます。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。今おっしゃってくださった5大学というのは首都圏で言うと山手線沿線みたいなものなんですか。

【福岡大学】 今年の総会でおっしゃった山手線の、明治でしたか、そんな感じだと思います。これを少し活発にしたいなと思ってるんですけど、先ほどおっしゃったようにアウトソーシング等でやっぱり各大学さんも図書館職員が削られているという状況がありまして、なかなかここも活発に動けないという状況です。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。8月に行なわれました研究会のテーマが素晴らしくて、「利用者を知る。利用者に伝える。図書館サービスの進化を目指して」というのでございました。そこら辺はかなり活発な議論をなされたんでしょうね。ということでおおよそ出揃いましたので、特に各協議会とは限らずに、各加盟館でいろいろお悩みあるいはお互いに情報交換したいというお話がございましたら、フリートークでかまいますので何かご意見を出していただければ助かりますが、いかがでございますでしょうか。

【大阪国際大学】 阪神地区協議会加盟館の大阪国際大学の尾崎と申します。阪神地区での協議会の補足説明をさせていただきますと、阪神地区協議会も京都地区同様平成17年に「近畿イニシア」に加盟しております、多数の参加をさせていただいております。この「近畿イニシア」の正式名称につきましては、「大学図書館近畿イニシアティブ」と申しまして、国公立大学を中心に研究会、年1回の研修会・研究会を開催しております。ちょっと補足させていただきました。恐縮でございます。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。何かご意見、あるいは今こういう悩みを抱えているのだけれどもいかがなものかというようなこと、何でも構いませんのでおっしゃっていただければ。

【福岡女学院大学館長】 先ほどから新聞・雑誌の保存の分担という話があっちこっちから出ているんですけども、具体的にはどういう形で現在やられているんですか。京都と九州では。

【大阪学院大学館長】 新聞等の保存につきまして京都では。学園様いかがでございますか。

【京都学園大学館長】 京都地区に関しましては主に新聞とか、その地区独特の広報物等を各地区の学校で部分的には永久保存等々で分担しています。その明細につきましてはもちろん相互協力連絡会のホームページに挙げているわけですが、図書館スペースが、先ほどもちょっと出ましたけれども、私共もいっぱいいっぱいでございますので、その軽減も目的といたしまして、主に新聞が多うございます。縮刷版とか、非常に場所を取りますので、その辺が中心かと思えます。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。九州のほう、中村さんお願いいたします。

【福岡大学】 九州地区では先ほど言いました外国新聞について加盟館全部にお願いしま

して、そのの大学に特色して取っている外国新聞について、福岡大学であれば 10 社とか、久留米大学さんであればもう少し特色のある外国新聞とかについて、毎年保存の内容を検討しながら、まあ 1 社とかのところもありますけれども永久保存をしていただくということでやっています。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。ということでございますがご参考になりましたでしょうか。具体的にということで、中村さんどうですか。

【福岡大学】 具体的にと言いますか、福大の場合は学部も多いので今のところ 14~15 ぐらい、もう少しありますか。先ほど言いました久留米大学さんとか、学部的に以前からお持ちになっているような部分については永久保存していただくと。沖縄大学さんは沖縄大学さんで、学部的にこれは必要ないとか、この新聞をとってほしいとか、先ほど言いました運営委員会に諮りまして、福大はこれとこれ、久留米大学さんはこれとこれということでお願いして保存しております。これが具体的ということになるかどうか分かりませんが、運営委員会を毎年 5 大学の研修会の時に開きまして、新聞保存を検討して、ここにお願いしようということでやっています。

【大阪学院大学館長】 要するに学部の特色、たとえば工学部とか医学部とか薬学部とか、特殊な学部をお持ちのところ、あるいは日本で少ない学問分野で、外国の新聞をお取りになっているところでは、独自のものを持っているということでその新聞を保存していただく。分担ということになるかどうかは別として。ただそれを長年保存するのが大変だというお話は実は伺っております。私の知っている限りではそういうことですが、他にございませんでしょうか。はいどうぞ。

【愛知医科大学】 愛知医科大学の田中と申します。私立大学図書館協会地区部会のレジメの質問のところ、一番最後のほうに、「機関リポジトリについて他大学の動向なども併せて知りたいです」という項目がありますが、私もそう思います。と言いますのは、愛知医科大学でもやはり機関リポジトリを発信したいと考えてはいるんですけども、未だに実現していないんです。すでに発信されているところがございましたら、どのような内容のものを発信されているのか、データ構築はどういうふうに行われているのか、たとえば CSV とかテキスト形式で蓄積、あるいは RDB (リレーショナル・データ・ベース) のオラクルなんかで蓄積。検索方法等検索ができる仕組みを備えておられるところがありましたら、どのような検索システムを構築されているのかという、この 3 点をお聞きしたいんですが。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。このリポジトリにつきましては昨年広島の際に研究発表をしていただきましたですね。その時実は私が質問をさせていただいて、なぜ広島でそれが可能になったのかということで、テーマが広島だったからできたのか、構築の仕方もそれがベースでできたんだろうかと質問した経験がございます。この件について、特に機関リポジトリについてご報告いただけるようなところはございませんでしょうか。

【広島修道大学】 広島大学さんが大きなリポジトリを建てていらっしゃいます。広島地区にハープという図書館協議会がございまして、国公立・私立が入っているんですけれども、その協議会で、広島大学さんの用意されたリポジトリが、共同のハープという名前で、確かこの4月に正式公開をされたと思います。そこには県立大学さんとか広島市立大学さんとか私立の大学とかが入って、共同運営をされております。昨年福岡工業大学でしたか、そちらで広島工業大学さんのほうから発表があったと思います。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。もしよろしければ今私の申し上げましたのが、今日の総会資料の6頁にございます。「2」2007年度西地区研究会。今おっしゃっていただいた福岡工業大学様で昨年やられています。その第2部の「研究発表(2)共同リポジトリ構築実験報告」というのがございまして、広島工大附属図書館の森保先生にお話しいただきましたのがきっかけでございます。わが国の場合ですといわゆる実験段階であるということと、それからいろいろ最近私共なんかも見ておりましたら、研究論文等のアップをしているという形でのリポジトリが目立つようでございます。実際にどのようなことまでというのは私も実は掌握できておりませんので申し訳ございません。もしよろしければここにございます広島工業大学の森保先生にでもまたお尋ねいただければ。まさにこういう時でも、どうなのかということをホームページでもアップできていればよかったですと存じますが。あ、ちょうど今広島工業大学さんがおられました。気が付きませんでした恐縮でございます。

【広島工業大学館長】 広島工業大学図書館長の岩本です。実はこの共同リポジトリですけれども、私は今年の4月から図書館長になりまして、その時までこういうものがあるということを知りませんでした。森保さんにいろいろとお尋ねしている段階です。最近広島市の私立大学を中心にまとめて公開いたしました。内容は紀要の発表とか、その他それぞれの学校の教育に関する研究発表とかで、これからそういうものを徐々に増やしていき、少しずつ充実させていこうと思っています。全国的にも県単位の私立大学を中心にこういう研究発表機関を設けたというのはかなり先進的だということですが、われわれもまだ緒に就いたばかりで、これから充実させていかなくてはいけない段階です。私自身まだいろいろと勉強しなくてはいけないことがありまして、具体的なことをここでご報告することができないんですけれども、森保さんがかなり詳しく知っていますので、問い合わせていただきましたら具体的な説明ができると思います。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。今広島工業大学様からお伝えいただきましたように、わが国もやっこのリポジトリを、図書館協会でもここ数年やっとならした、というのは失礼な言い方ですが、やっこの構築の緒に就いたところ、というような気がいたしますので、できれば森保先生にぜひお尋ねいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。他にございますでしょうか。お時間も少し迫ってまいりました。せっかく会長校の中央大学館長先生にお越しいただいておりますので、大きなテーマでもありましたし、東西に関わらず共通した認識の問題があるかと存じますので、先

生に総括をしていただきたいと存じます。お願いいたします。

【中央大学館長】 とても総括などできるほどの知識はありませんので、感想めいたことを申し上げたいと思います。「さらなる連携」ということで今日私の挨拶の中で大学図書館のサービス業化ということに関連して、そういう問題が提起されてもいったいどういうふうにサービスを展開していいのか、またそれ以前に大学図書館としてなすべきことがあるのか、という疑問が出るだろうというふうに話させていただきましたけれども、この場のお話を伺っておりますとまさにそういうことをお聞きできたので、私大変参考になりました。「さらなる連携」ということで、3つぐらいの論点が出ているのではないかと思います。あくまで感想ですけれども。1つはこの東海のほうで出されましたデジタルリソースの導入・活用というテーマです。デジタルリソースを導入するというのはかなり大変なことだと私は思っています。まずデータベースを導入するのに大変金がかかるわけで、それぞれの大学が1つ1つ購入（まあ業者のほうはそういうふうに仕向けてまいりますけれども）していたら、とても財政的にもちません。事実中央大学の場合もすでにかなり赤字を出しそうな状態になっています。私立大学でそれに耐え得る大学というのは早慶ぐらいでしょう。そんなふうに思っております。

しかし導入してもではそれをどうやって活用するかということになりますと、このアンケートにありますけれども、情報リテラシーを充実させていけないといけないわけで、私の大学は今それに取り組みだしているんですが、大事な宝物をどう活かすか。そうするとここで今度は人材の問題が出てくるわけですね。どんどん図書館員が減っていくという実状の中でこれをどう防ぐかということにも、各館長さんは大変ご苦労をなさっているのではないかと思います。

そしてもう1つ今ご質問のありました機関リポジトリですが、これについてはやはり、力がある大学は早いうちに取り組むべきだと思いますけれども、財政的にも人材の面でもなかなかそこまで手が回らないということがありますので、その辺を踏まえて、どこをどういうふうに取り組んでいくかということでもっと情報交換をする必要があると思います。このアンケートを見ても、非常に格差ということを強調されている感想が目立ちますし、デジタルリソース自体どういうものかという戸惑いを見せているところもあるわけですね。その辺をお互いに、導入するとすればどこから、という具体的な話のところまで詰めてやらないといけない。そのための連携ということが必要じゃないかと私は思っております。

それから2番目の連携については、デジタルリソース以前にということ、1つは公共図書館。それから学校。高校レベルですとかなり力を持っている高校もありますので、その連携ということも考えていいと思います。ただこれはそれぞれ設立者が違いますので、設立者同士の了解が得られないと連携がなかなか進み難いと思います。それを突破するにはけっこう厄介な問題があるだろうと思います。新聞や雑誌の共通保存。おそらく各大学が書庫の問題を抱えているので、そういうこともできるならば連携をしていくべき課

題であって、ですからデジタルリソース以前に連携すべき問題というのも、議論されればまだあるのではないかと思います。

あと3番目ですが、私今日の挨拶で自己評価、社会的評価の問題というのを考えていたできたいと申しあげました。これはサービス化ということにどう対応するかということが私の念頭にあったんですけれども。しかしそれはレベルがいろいろあると思いますので、さしあたり利用者が図書館に何を期待しているか、そして図書館がそれにどう応えるかというところは共通項としてあると思います。その辺の問題に取り組んでいかないと、これからの大学評価の中で図書館評価をやる場合に必ずそれを聞かれてまいりますので、そこに「検討する」とか「将来やる」というような回答は許されない状況になっております。ぜひその辺のことも、どう対応していくかという連携があってもいいのではないかと思います。

最後ですが私は図書館長の懇談会の場合は、今日「さらなる連携」ということでいろんな論点が出されたと思いますけれども、その論点を見定めるところがこの役割ではないかと思うんです。その論点の具体的な詰めというのは、館長レベルではなかなか無理でございますので、むしろその論点設定のもとで、実務的な詰めは館員の職員の方にやっていただいて、それをさらに館長会議に戻してもらおうというふうなやり方が望ましいのではないかと、館長会というのはそういう役割をするのではないかという感想を持っております。以上です。

【大阪学院大学館長】 ありがとうございます。そろそろお時間もまいりましたし、せっかく頂戴いたしましたお昼もこんな難しい話をいたしますと消化不良を起こしてしまっ
てはいけないかと存じますので、貴重なご意見等を賜りましたことを感謝申し上げまして、今回の館長懇話会をこれにて終了させていただきたいと存じます。どうもありがとうございました。